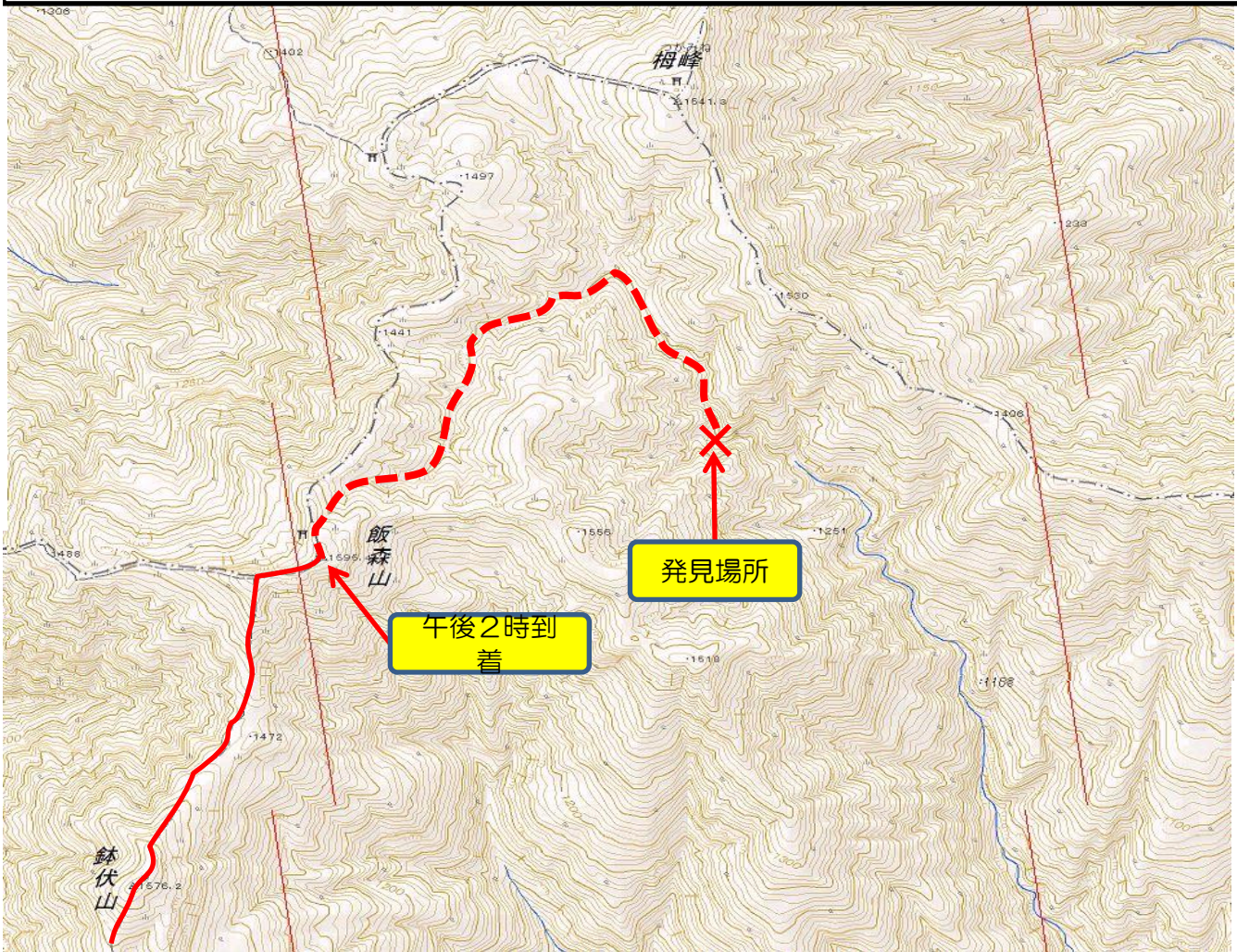


飯森山遭難(1999年7月)

途中で出会った登山者と会話をし、予定外の沢コースを下ることにしたが、沢コースは歩いたことが無い。道なき道を2日間下り、滝が出たところで万事休す。じっと救助を待ち、4日後に救助された。



解説

午後2時、飯森山へ到着。すでに、350mlの缶ビールを3本空け、この山頂でもう1本を空けた。途中出会った登山者から「沢コースの方が早く下山できますよ」との情報を得る。山頂到着が遅くなったため、予定外の沢コースへ変更した。早く下れるという情報を得たからだ。しかし、沢コースは本格的な沢登りの準備が必要なコースであった。沢を2日下ったところで、滝が現れ、万事休す。下ることができなくなった。救助を待つことを決め、動くことをしなかった。幻覚も見したが、4日後に救助された。

山の途中で出会った登山者からの不確定な情報で行動日程を変えてしまった。地図も持たないためその情報をうのみにしてしまった。ビバークをした翌日の2日目、遭難者は来た道を引き返そうとはしなかった。道迷いの不思議である。戻る方が確実に早く帰れるのに「沢を下った方が早く下山できるだろう」という希望で進んでしまうのだ。

『地図も持たず、下調べもせず、沢というより厳しい谷川を強引に下ったことは無謀、いや自殺行為にも等しいものであり、自己過信であったとの反省の気持ち、途中からでも戻る勇気があったならとの後悔の念で一杯になりました。そして、どんな山でも気象の変化など自然界は厳しく、悔ってはいけないと、改めて今後の教訓にしなくてはとも思いました』と遭難者は語った。